

2013年10月
1059号

百葉

Manyoh

一冊の会 編集部

〒160-0015 東京都新宿区大京町5

(一冊の会研究室)

『民主政治読本』復刻出版記念パーティー

～有権者が主役の政治～

真の民主政治と世界平和の実現に生涯を捧げ、「憲政の父」と称される政治家・尾崎行雄（号堂）——その理念を自ら若者に伝えるべく記された名著『民主政治読本』が、憲政擁護運動100周年の本年、復刻版として出版されました。

9月25日、尾崎行雄記念財団主宰による『民主政治読本』復刻出版記念パーティーが、憲政記念館「霞ガーデン」において開催され、駐日レソト王国大使ご夫妻、多数の国会議員の皆様をはじめ、大勢の方々がお祝いに駆けつけました。

はじめに主催者を代表して、同財団評議委員長の高村正彦衆議院議員から、「尾崎先生の見識は、リンカーンにも勝るとも劣りません」「一人でも多くの方々がこの本を読むことによって、日本の政治が良くなることにつなげていきたい」と挨拶されました。

同財団会長である伊吹文明衆議院議長からのメッセージの代読された後、リチャード・ラモエツィ駐日レソト王国大使の挨拶の際には、日本語案内として一冊の会の会長であり日本レソト王国友好協会会長でもある大槻明子会長が大使と共に壇上に立ちました。大使は「6年前、第4回TICADの時に、日本レソト王国友好協会を設立でき、初代会長に一冊の会・永久最高顧問である尾崎行雄 三女の相馬雪香先生に就任いただきました」「この本が、日本語だけで出版されたことが残念です。英語に翻訳されることを望みます。そうすればレソトの人々もこの本を読めるからです」との言葉を語られました。



左から 一冊の会及び日本レソト王国友好協会会長大槻明子・レソト王国全権大使御夫妻
高村正彦自民党副総裁・枝野幸男元官房長官・猪口邦子元軍縮大使

その後、党派を超えてお祝いに駆けつけてくださった国会議員の皆様が挨拶に立たれました。猪口邦子参議院議員は「言葉で思いを伝え、思想をつなげ、説得し、良い政治を作る技術を我々も習得していなければならぬ」「外国語の習得後の必要性を説かれた先見性」「大事な一冊をさらなる民主主義の発展のためのバイブルとしたいと思います」と述べられました。枝野幸男衆議院議員はご自身の祖父が尾崎先生を尊敬し、字は違いますが「幸男」と名づけられた経緯を語られ、「何十年後の人が復刻し、うなずく人がたくさんいる古典になるような話を残されている先生は改めて素晴らしい」と称えられました。遠山清彦衆議院議員は、1947年『民主政治読本』出版当時の書評を紹介。「今後の日本の運命を担う人たち、すなわち12～25歳くらいの人を目当てに、政治教育運動を起こすためのテキストとして著者が愛国の情熱を持って書かれたもの、等の内容を紹介し、「今回、私自身もまずは一つ、書評を

書くことをお約束します」と結ばれました。穀田恵二衆議院議員は本書から「新憲法の花は戦争放棄、
「実は権利と義務」と引用し、「東日本大震災を憲法に基づいて復興していくことが、私たちに課せられた仕事だと思う」と話されました。柿沢未途衆議院議員は「国会に入ると、尾崎先生の胸像がある。東京市長を務められた尾崎先生を目標にしていきたい。英語版どころか中国語版を作り、アジアにもひろめていただきたい本」と述べられました。

多数の祝電を代表して、鈴木健一 伊勢市長、石原伸晃 環境大臣からの祝電が紹介された後、本書を編集し、解説を執筆された石田尊昭 同財団理事・事務局長が挨拶に立たれました。石田理事は、「超党派で国会議員の方々が駆けつけてくださった、これが尾崎財団です。国民が政治家に何かをお願いしてお任せするような政治はやめて、私たち一人ひとりが引き受けて責任を持つ政治、政治家の皆様と共に国づくりをはじめ、世界に貢献していく気概を持つことが民主政治読本の真髄です」と熱く語られました。続いて、一冊の会のメンバーから、石田理事への花束とプレゼント贈呈が行われました。

田村重信「尾崎行雄・罌堂塾政治特別講座」塾長の乾杯の挨拶、歓談の後、「友好の木イニシアチブ」——米国ハナミズキ・憲政記念館植樹への感謝状が、萩原俊廣氏（ハギワラ樹木研究所・樹木医）に贈呈されました。

その後、駆けつけてくださった、若林健太参議院議員が「日本と世界の民主政治の発展を切望します」と挨拶されました。さらに高木美智代衆議院議員は、議員就任の年に相馬雪香先生からいただいた言葉「日本の国益と世界の平和と両面から判断できる政治家に」を指針としていることを紹介されました。

レソト王国大使は帰りがけにも周囲の方々に「日本のみならず世界の人々に勧めたい本であるので、ぜひ英語に翻訳していただきたい」と重ねて語っておられたそうです。

小雨の降る中にも関わらず大勢の方々が集まり、場内は熱気にあふれていました。なお当日の皆様からの参加費の一部は、東北復興支援に充てられます。



レソト王国全権大使御夫妻と同財団理事兼事務局長 石田尊昭 (NPO 法人一冊の会副理事長)



レソト王国全権大使御夫妻と同財団理事原不二子と同石田尊昭 (NPO 法人一冊の会副理事長) 遠山清彦衆議院議員等と NPO 法人一冊の会メンバー

【罌堂先生の精神の研究者である石田尊昭先生のもと、一冊の会は未来に向かって語り継ぐ語り部の人材育成に励んで参ります。】と決意を掲げて記念撮影

～「罌堂」の由来～

罌堂（がくどう）とは、尾崎行雄の雅号（ペンネーム）である。尾崎は青年時代、「学堂」と名乗って執筆活動をしていた。1887年12月、政府の発した保安条例によって東京退去を命じられ、愕然としたことから「愕堂」と改める。そして50歳頃より、りっしんぺんを取って「罌堂」とした。（尾崎行雄記念財団HPより）

～桜の木とハナミズキ～

尾崎行雄は、東京市長在任中にアメリカ合衆国にソメイヨシノを寄贈し、3000本が植樹されました。その返礼として、今度はアメリカから「友好の木イニシアチブ」を通じ、日本にハナミズキが贈られ、日本に初めてハナミズキをもたらした人物としても知られています。